

2月の行事予定

日	曜	行 事 内 容	日	曜	行 事 内 容
1 日	(日)	市政を語る市長と青年の会(文化会館) 郡内地区視覚障害者福祉大会(都留市) 除籍・改製原戸籍再製作業(第三会議室)～13日 第2次学力試験願書受付(文科大学)～16日	18 日	(水)	文科大学教授会
4 日	(水)	文科大学教授会 山梨県社会福祉大会(県民会館)	20 日	(金)	移動県民相談(10:00～4:00)文化会館 人権相談(1:00～4:00)第一会議室 行政相談(1:00～4:00)禾生出張所
5 日	(木)	全国市議会議員会理事会(日本都市センター) 都留地区家庭奉仕員研修会(静岡県)～6日 法律相談(1:00～3:00)第一会議室	21 日	(土)	戸籍事務現地指導(禾生出張所・盛里出張所)
6 日	(金)	高速自動車道通過都市議会協議会 (日本都市センター)	22 日	(日)	第4回公民館まつり(文化会館)
7 日	(土)	第13回市民スキー教室(長野県)～8日	23 日	(月)	不用犬・猫の巡回収集(市内)
10 日	(火)	文科大学後期末試験終了 上谷三ノ側線道路改良に伴う説明会(第三会議室)	24 日	(火)	文科大学教育実習連絡協議会(社会教育会館)
13 日	(金)	関東市議会議員会支部長会議(栃木県)～14日	26 日	(木)	消費生活通信講座閉講式(文化会館) 戸籍事務現地指導(宝出張所・東桂出張所)
16 日	(月)	広報委員会(1:00～3:00)第一会議室 発明相談(10:00～3:00) 教育委員会(教育長室)	27 日	(金)	戸籍事務現地指導(市民課)
17 日	(火)	老人医療施行事務監査(第一会議室) 都留地区心配ごと相談員研修会(文化会館) 社会保険出張相談(市民課)	28 日	(土)	春の全国火災予防運動(～3月13日)



やがては到来すると思われる食糧危機。そのとき、我々は自らの手で口を糊することができるだろうか。こういう危機感、けつして被害妄想ではないと言いつけるくらい、食糧問題への関心は、人々の心の深部で定着しています。

戦後の食糧難の時代を耐え忍んで生き抜いてきた、いわゆる戦中派に属する人々は、あの困苦を体験しているから、再び食糧難がやってきても、生き伸びてゆく自信がある。」と事有ることに言います。

しかし、戦後三十五年の歳月が流れ、現代の物質文明にどっぷりと漬ってしまった心身が、ある日突如として襲来する食糧パニックに、狼狽することなく対処できるだろうかという素朴な疑問が湧いてきます。

額に汗した結晶が手づくりのもちに

ふるさとづくりコーナー



てきます。確かに、人間の生への執着本能は、テレビで報道するベトナム難民の生態に見られるように、言語に絶するものがあります。だが、彼らは平穏時ですら、慢性的な食糧不足に悩みながら、日々の生活を営んでいるのですから、普段、肥料が良くついた温室内で生活している状態の我が国とは、既に出発点を異にしているのです。

日本の原始社会では、漁撈、狩猟、農耕が生活を支える根本でした。そこで、この食糧危機への対応を踏まえて、勤労の貴さを体験するなかで、併せて理科の実習も

行なおうという試みが、都留文科大学附属小学校で実践されました。学校のすぐ下にある二アールほどの田(大津征夫氏所有)を借りて、田植えから稲刈り、収穫までの一連の作業を、全校生徒一〇四名が力を合わせて行ないました。農業の機械化が進んでいる最近では、農家の子供でも、なかなか田の中に入る事がなく、靴のまま泥の中に足を踏み込む生徒も現れて、土に親しむ機会に恵まれていないことを物語っていました。

秋の収穫には、千歯、穂打棒、足踏み式脱穀機、人力扇風機などの一時代前の農耕具が登場して、慣れない手つきながら、汗びっしょりになって、働くことの貴さを感じとっていました。

こうして、額に汗を流した成果が、昨年暮のもちつき大会へと結晶しました。学校の裏山から拾い集めた木の枯枝を薪にして、蒸籠(せいろ)でふかし上げたもち米は全校生徒の手によって、きなことち、あんころもちなどに仕上げられてゆきました。この日は、あいにく降りしきる雪の中での大会でしたが、立ち昇る湯気と生徒の熱気で、周囲の雪も融けんばかりでした。春の田植えに始まり、暮のもちつき大会までの道程を振り返り、物を大切にする精神、労働の喜び、自然への愛着など、さまざまなことを学びとる意味で、この実習田事業は、生徒たちの大きな勉強となったことでしょう。